

# 練馬区のあらし

1	地勢	.....	10
2	歴史	.....	12
3	人口	.....	14
4	気象	.....	21



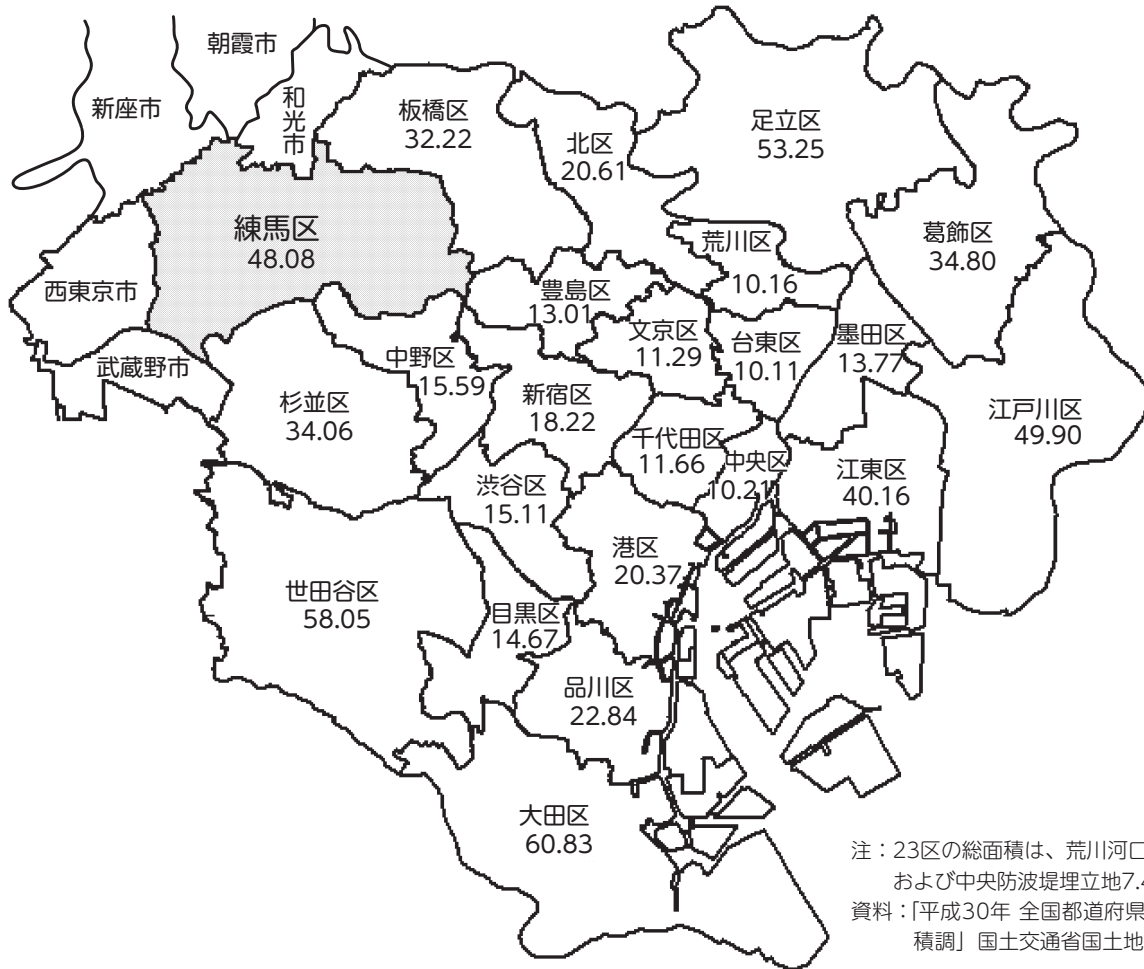
寄贈写真より「漬物樽のある風景（昭和50年代）」

# 1 地 勢

[23区の位置と面積] (単位: km<sup>2</sup>)

23区の総面積 627.57km<sup>2</sup>

30年10月1日現在



注：23区の総面積は、荒川河口部の1.12km<sup>2</sup>および中央防波堤埋立地7.48km<sup>2</sup>を含む。  
資料：「平成30年 全国都道府市区町村別面積調」国土交通省国土地理院

## ●位置、面積

練馬区は、東京都23区の北西部に位置し、北東から南にかけては板橋区、豊島区、中野区、杉並区に接し、西から南西にかけては西東京市、武蔵野市との境をもち、北は埼玉県の新座市、朝霞市、和光市に接している。

経・緯度で見ると、東経139度40分52秒～139度33分46秒、北緯35度42分43秒～35度46分46秒に位置している。なお、練馬区役所の位置は、東経139度39分8秒、北緯35度44分8秒である。

一方、練馬区の面積は48.08km<sup>2</sup>で東西約10km、南北約4～7kmのほぼ長方形である。

東京都の総面積2,193.96km<sup>2</sup>に対し、練馬区はその約2.2%、23区の総面積627.57km<sup>2</sup>に対し約7.7%に当たり、23区の中では大田区、世田谷区、足立区、江戸川区に次いで5番目の広さである。

## ●地 形

練馬区は、ほとんど高低差のないなだらかな地形をしている。

地盤高で見ると、西側が高く東側へ行くにつれて低くなっている。水準基標によると、関町北四丁目(石神井高校内)では海拔54.02m、羽沢三丁目(開進第四中学校内)では海拔26.01mとなり、平均すると、30～50m程度の起伏の少ない台地状となっている(資料：「平成30年水準基標測量成果表」東京都土木技術支援・人材育成センター)。

この台地は武蔵野台地といわれる洪積台地である。

## ●地 質

練馬区の地質は、地質年代から見ると比較的新しい時代に形成された地層で、台地は洪積層、低地は沖積層からなっている。

## 〔町名図〕



洪積層は、上部の関東ローム層、中部の粘土砂の互層、下部の砂礫層から構成されている。この台地の洪積層と、低地の沖積層の基盤になっているのが第三紀層である。

武蔵野台地の表面は、ローム層で厚く覆われていて水を得ることができないが、ローム層の下には粘土と小石の累層があって水を含んでおり、そうした層が谷の底、谷の側壁、段丘の崖の下などに露出して湧水となる。三宝寺池、富士見池や井頭池（弁天池）は、こうした湧水からできた池である（資料：「昭和44年練馬区地下水調査報告書」）。

## ●地名の由来

「ねりま」という地名の由来には、『関東ローム層の赤土を黏ったところを「黏場」といった』、『石神井川流域の低地の奥まったところに沼＝「根沼」が多かった』、『奈良時代、武蔵国に「乗瀦」という宿駅があった』、『中世、豊島氏の家臣に馬術の名人がおり、馬を馴らすことを「ねる」といった』などの諸説があり、定説はない。

## ●区の紋章

ネリマの「ネ」の字と「馬のひづめ」を組み合わせて図案化したもので、約900点の応募作品から選定された。

練馬区が平和で、健康で、明るいまちに発展していくようにという願いをこめて、昭和28年12月に制定された。



〔区の紋章〕

## ●区の花と木

美しい花と豊かなみどりの住みよいまちづくりを進めるために、区のシンボルとなる花と木を区民から公募し、昭和46年4月、花は「ツツジ」、木は「コブシ」を選定した。



〔区の花 ツツジ〕



〔区の木 コブシ〕